

伊賀市社会事業協会 2004

2004年12月15日 第8号
社会福祉法人伊賀市社会事業協会
発行者 森下達也
編集責任者 西岡時彦
〒518-0032 三重県伊賀市朝屋739番地の2
TEL 0595-21-5545
FAX 0595-23-6670

二つの時代

社会福祉法人 伊賀市社会事業協会

理事長 森下達也

三十年以上前のことであったか、私は、三島由紀夫の「豊饒の海」全四巻を、作者の異様な気魄にうたれながら読み終えた。正にその直後、あの三島自刃事件が報道され驚愕したのであった。思い返せば、「豊饒の海」は三島の遺書でもあった。最近、愕きというほどではないが、似たようなことがある。浅田次郎のロングセラー「シエエラザード」上下二冊を珍しく一気に読み終えた直後、朝刊各紙が、台湾海峡に沈む日本の大型商船「阿波丸」を中国が引き揚げる準備を始めたと伝えたのである。浅田次郎の「シエエラザード」の中の「弥勒丸」は、実は「阿波丸」であり、小説のモチーフそのものが阿波丸事件であったから、各紙の記事を食い入るように読んだのであった。

阿波丸事件のことは多くご承知であろうが、大戦中南方の諸地域で日本軍の捕虜になっていた米英将兵等に、食糧や医薬品などを運ぶという目的で門司を出港、米政府により往復路の航海の安全を保証されていたにもかかわらず、シンガポールからの帰路台湾海峡で米潜水艦沈没された事件である。米国は誤認による攻撃であると弁解したがそれは本当か、臨検を受けない協定になっていた阿波丸に帰路日本軍が大量に積んだ物は何か、北京原人の頭蓋骨が積まれていたという説もあるが本当か、生存者はたった一人で約二千人もの乗員乗客が死亡したが、乗客とはどのように選んだ人達か、多くの謎を抱いたまま台湾海峡に消えた事件である。

遅まきながら本題にもどるが、小説「シエエラザード」が今多くの人の胸をうつのは、その中で二つの時代が交差しながら同時に進行することによって、ありありと対比されるからであろう。一方では、弥勒丸実は阿波丸が出港してから爆沈に至るまでの、軍命による不可解な航海を描きながら、純

粋で誇り高い商船乗組員達の最期や、不条理な時代とはいえ一人ひとりの日本人の良心は消えていなかったことを想起させる。他方、半世紀余の時を経て、かつて悲劇の航海に何らかのかかわりを持ってしまった人達が現世の片隅で深い悔いに耐えながら老いている姿と、ただれた時代の中で決然と過去を明らかにしようとする動き始めた人達を同時進行させるのだ。戦後の経済偏重の社会の中で、忘れられた日本人の良心への問いかけと言ってもよいだろう。

「近頃の若い者は」などと言うつもりはないが、二つの時代の人間像をもう一度正しく把握し比較してみることが、日本再生、日本人再生のために必要なのではないか。「過ちの時代」として葬り去った過去の中から、もう一度学び取るべきものが確かにある。それを検証しないで、教育の立て直しなど一体出来るのだろうか。

私達の福祉も、構造改革と稱して市場システム化への一途をたどっている。それが福祉の精神的構造にどのような影響を及ぼすかは、殆ど検証することなしにである。資本主義社会だから仕方ないとおっしゃるのだろうか、資本主義社会だからこそ、福祉の純粋性、非営利性を軽視してはなるまい。わが伊賀市社会事業協会の諸君よ、墮落に与することなく、福祉の純粋性を守り抜こうではないか。



伊賀市社会事業協会法人本部、梨ノ木園、第三梨ノ木園、老人デイサービスセンターなしのき、梨丘園

「さく・咲く・作品展&コンサート」

平成六年四月に開設した在宅障害者デイサービス施設「かしの木ひろば」は、今年で丸十年を迎えることができました。これを記念して、「十周年の記念式典」と「さく・咲く・作品展&コンサート」を開催しました。当初は十月九日に開催を予定していましたが、台風二十二号の影響により、十月十三日に延期になりました。心配をしていましたが、会場には百三十人余りの方々にお越しいただくことができました。

まず、来賓の皆様方にお祝いの言葉をいただいた後、スライドを上映しました。竣工の様子から平成七年六月のヘルパー事業の開始、平成九年十月の伊賀広域在宅障害者生活支援センターの開設、そして、デイサービスでの様々な行事や活動など、開所から現在に至るまでの「かしの木ひろば」の十年間の歴史を見ていただきました。



お祝いのことばを述べられる小川課長

午後、音楽療法士としてご活躍の大滝昌之氏をお招きし、楽しいコンサートを開催しました。大滝氏は、利用者とのピアノの連弾や、参加者全員が楽器を持って演奏に加

かしの木ひろば10周年記念式典

わるなど、会場を一体化させた音楽コンサートを下さいました。ピアノの連弾では、障害者の方が



大滝氏による楽しい音楽コンサートの様子

一本の指で弾くと、それに合わせて大滝氏の伴奏が加わり、オリジナルの曲になっていきます。脳性麻痺で手が不自由な利用者は、「私にもピアノが弾けた」と、とても嬉しそうに話してくださいました。

最後の曲が終わると、会場全体から「アンコール!」の歓声があがりました。アンコールには職員のギター演奏も加わり、おおいに盛り上がりました。すぐに聴衆の心をつかみ、雰囲気を引き込んでしまう妙技に、さすが音楽療法法の講師さんだと感心させられました。

当施設の二階では、「さく・咲く・作品展」を行いました。利用者が今年製作した作品と、十年間で自分の一番のお気に入りの作品を、会場いっぱい展示しました。

また、「芭蕉翁生誕三六〇年記念」のグッズとして製作したさをり織の「ふくろうビーズストラップ」など、小物の即売もさせていただきました。五名の利用者で始まった「かしの木ひろば」のデイサービス事業は、現在支援費制度の中、四十五名の方と契約を交わし、毎日二十名余りの方にご利用いただいております。また、ホームヘルプ事業は、三十五名の方と契約を交わし、三人のヘルパーが利用者のお宅を訪問し、その方のニーズに合った支援をさせていただいております。在宅障害者生活支援センターでは、身体障害者だけでなく、知的障害児や精神障害者の方々の相談にも応じ、生活支援につなげています。

「かしの木ひろば」はこれからも、障害者の方々が自分らしく、いきいきとした生活が送れるよう、充実した支援体制を構築していくと共に、関係機関の方々や地域の皆様方との連携を密にして、より良いサービスを行なうてまいりたいと思います。今後とも、ご指導ご協力をたまわりますよう、よろしくお願いいたします。



「さく・咲く・作品展」の様子

伊賀広域在宅障害者生活支援センターかしの木より

当センターでは、住宅改修に関するご相談もお受けしています。

建築士、大工、作業療法士などのリフォームヘルパーチームが、身体障害のある方々の住環境を改良し、在宅でより快適な生活ができるようお手伝いしています。



リフォームヘルパーと改修の打ち合わせをしています

ハンドメイドクリスマスお菓子作り

お試し期間中

梨ノ木園

梨ノ木園では、昨年から行なっている「お菓子作り」を「ハンドメイドクリスマス」と改称して、新しい取り組みを始めました。利用者の皆さんに、お菓子作りや、自分でつくったお菓子を味わうことをもつと楽しんでいただくようと考えたからです。

「ハンドメイドクリスマス」では、まず、利用者の皆さんとお菓子の材料などについて話し合います。また、包丁などの調理用具も充分気を付けて使っていたり、調理にも積極的に参加していただいております。お菓子ができ上がると、『喫茶りきゅう』で飲み物を注文し、作ったお菓子をゆつくりと召し上がっていただきます。

中には、調理を楽しみたいと思う方や、喫茶とお菓子作りを別々に楽しみたいという方など、利用者の皆さんの希望もさまざまです。そこでしばらくは、お試し期間としていろいろな方法で実施しています。

これから利用者の方々と共に、お菓子作りをより楽しめる方法を考えていきたいと思っております。



お菓子作りに熱中する利用者と職員

老人施設のページ

ほけんだより

骨粗鬆症について

食事によるカルシウムの摂取不足、また運動不足により、骨カルシウム量が不足、減少します。そのため骨がスポンジ様に粗くなり、骨折し易くなり、骨粗鬆症となります。閉経後の女性と高齢者が発症し易く、少しつまづくだけでも転倒骨折を起こします。上腕骨骨折、大腿骨（頸部）骨折、前腕骨骨折、腰椎骨折（圧迫骨折）が多数例見られます。そのようにならないためには適度の運動や散歩が有利であり、「転ばぬ先の杖」として、T字状の杖を使用し、服装も動き易いものを着用し、段差や溝は注意して歩行、部屋は整理整頓し転倒しにくい環境を作りましょう。また、常にカルシウムを摂取、血液中や骨にカルシウムを多量に送り込む必要で、チーズ、牛乳、ヨーグルト、小魚類、海老類、煮干し、めざしを使った食材、野菜類、大豆類を摂取する様、心掛ける事が肝要であり、骨粗鬆を予防し、骨折しない様、注意して過ごしましょう。

医学博士 日根野 暁医師

『なごみホール』が誕生しました

梨ノ木園

三重県共同募金会のあたたかいお気持ちのこもった配分金をいただき、このたび、梨ノ木園本館2階にホールが完成しました。これまでに北の棟には『憩いの部屋』、本館1階には『ひだまりホール』がありましたので、本館2階の方々は大喜びです。余暇をゆったりとくつろいでいただけるように『なごみホール』と名付けました。ホールの窓の外は木根山から連なる自然林があり、季節の移りゆく様が望めます。ホールのガラス戸には、伊賀を故郷とし、芭蕉さんと慕われる俳聖松尾芭蕉の旅姿や俳聖殿、上野城が影絵のように浮かんでいて、落ち着いた雰囲気です。

9月17日には、ホール完成を祝してお茶席を設け、お茶クラブの方々に日頃のお手前を披露していただきました。伊賀の銘菓とおいしい抹茶をいただきながらのなごやかなひとときは、『なごみホール』誕生にふさわしい素敵な笑顔がいっぱいでした。



完成した「なごみホール」でお茶を点てる在園者

浴槽・浴室が新装！！

「デイサービスセンター」[なしのき]では、浴槽・浴室の改修工事が終了し、九月十六日より、新しい浴室を使ったの入浴サービスが再び始まりました。リフト浴を希望される方が増えてきていますが、以前は専用の浴槽がひとつしかなく、利用される方には、不自由をおかけしてしまいました。しかしこの度、リフト浴専用浴槽が作られ、もう一台入浴装置を増やしました。また一般浴槽には、個々に手すりをつけ、洗い場もずいぶん広くなり、シャワーも増設されました。

お待ちかねの新しい浴室での初風呂の日、利用者の皆さんは、緊張の面持ちで浴室に入られましたが、広くて使いやすいとなった浴槽にゆったりとひたっていると、だんだんと顔がほころび、ご満悦の表情です。「あ、ええ湯やった！」「手すりがあるとなんか助かるわ。」など、湯上りの身体を休めながら、ひとときりうれしいお言葉をいただきました。これからの寒い冬、身体の芯まで温まっていたいただけるような入浴サービスを行なっていききたいと思います。



使いやすくなった浴室・浴槽

古梨まつり

目をありがとう

さ、やさしさに心打たれ、郷愁を誘う数々のメロディに、誰れからともなく唱和が始まりました。演奏が終わった時、会場はしばらく拍手が鳴りやみませんでした。

続いてコーラスグループ「ステラ」の皆さんの登場です。当協会職員によるコーラスグループが美しい歌声を聞かせてくれました。

ハンドベル部の皆さま、「ステラ」の皆さま、本当にありがとうございました。



かけつけていただいた
今岡睦之市長



日生学園中学校・第一高等学校
ハンドベル部の演奏

第二梨ノ木園

第二梨ノ木園では、在園者の方やそのご家族、ボランティアの方々、職員でハンカチの紅花染めに挑戦しました。紅花染めとは、俳聖松尾芭蕉ゆかりの花として伊賀でも普及してきた紅花を染料に使用しています。

紅花染めに欠かせないのが烏梅うばいです。烏梅は、梅の実にススをまぶして蒸し焼きにした紅花染めの定着剤です。この烏梅を作っておられるのが、当日講師にお迎えした辰巳洋子さんの叔父様にあたる月ヶ瀬村の中西喜祥さんです。烏梅のできるまでの行程のビデオを放映し、辰巳さんのご指導をいただきながら、水で絞った紅花とわら灰の液体、それに烏梅を使って、鮮やかな色のハンカチが染め上がりました。「紅花は、赤や黄色のイメージがあるけど、こんな濃い桃色に染まるとは!」と皆さんびっくりされていました。

本当にいい体験をさせていただきました。



もうすぐ「紅花染め」のでき上がり

梨丘園

今年、梨丘園では2名のミュージックコーディネーターの先生と利用者の方12名による歌や楽器の演奏と車いすダンスを行ないました。

歌の発表会ではこの日のために4月から月1回練習を重ねてきた歌を披露しました。参加された利用者の方からは「緊張したが、声が出せて満足だった」、「家族も良かったと言ってくれて嬉しかった」との声が聞かれました。

後半の車いすダンスは利用者の方、ご家族、ボランティア、職員がフォークダンスの曲に合わせて踊りました。選曲は利用者の方との話し合いで決め、何度も練習を重ねましたが、本番は少しバラツキが出ました。曲が少し早目だったので目がまわったという声もあり、次回への反省点となりました。



生演奏を楽しむ利用者の方々

たくさんの投句を
ありがとうございました

今年の往古梨まつりでは、俳聖松尾芭蕉生誕三百六十年祭にちなんで「芭蕉さんコーナー」を開設しましたところ、たくさんの方の投句をいただきましたので、その一部を掲載させていただきます。残念ながら掲載できなかった句は、施設内に掲示させていただいております。本当にありがとうございました。

伊賀の里往古梨まつり紅葉かな

長谷川正俊

ちぎり絵のざくろはじけるなしのき園

梨ノ木園

梨ノ木園の午後のアトラクションは器楽クラブの軽快でリズムカルな演奏から始まり、4つのクラブが日頃の活動の成果を発表しました。

また、“伊賀の上野はよいところ唄って・踊って・鳴らそうよ”と題し、「伊賀上野小唄」の曲にあわせて、思いのままに楽器を鳴らしました。また、浴衣姿の利用者の踊り手さんに花を添えていただくなど、会場は熱気に包まれました。

最後に、職員による「芭蕉ふるさと音頭」を銭太鼓演奏も加わり披露させていただきました。

「芭蕉ふるさと音頭」は芭蕉生誕360年を記念してつくられたものです。



芭蕉ふるさと音頭をみんなで踊りました

当日は、あいにくの雨で室内での開催となりましたが、午後のひとときを伊賀の上野シリーズで、お楽しみいただきました。

第4回往古

—すばらしい1日

第4回往古梨まつりは、10月30日、小雨の降るあいにくの天候でしたが、多くの方々にご来園いただきました。

梨ノ木ひろばに張られた大きなテントの下での開会式のあと、アトラクションは梨ノ木園集会室と梨丘園ラウンジのふたつの会場で行なうことになりました。

梨ノ木園集会室では、まず日生学園中学校・第一高等学校ハンドベル部の皆さんによるハンドベルの演奏でした。大小のハンドベルが奏でる音色の美し



開会の挨拶をする森下達也理事長



コーラスグループ「ステラ」による合唱

デイサービスセンターなしのき

長田老人クラブ連合会の皆さま、大野木ゆうゆうクラブの皆さま50名をお招きし、午後のデイサービスセンターはとてものにぎわいました。

まず、転倒を防ぐためのワンポイントアドバイスを聴いていただきました。日頃の小さな注意の大切さをかみしめてくださっているようでした。その後は、『ちぎり絵教室』へと早変わり。各テーブルに並べられた秋の果物や野菜を見ながら、いろいろな和紙をちぎって葉書に貼っていきます。細かい手作業にあちらこちらのテーブルから、「こんなの初めてや…」「絵は描いたことあるけど、これもいいな」など、楽しい会話も弾みました。皆さんの手元には個性あふれる手作りの葉書が完成しました。最後に軽く体操をして身体をほぐしていただき、なごやかな午後のひとときをお過ごしいただきました。



地域の方々がちぎり絵を楽しんでいます

秋雨の往古梨まつりにぎやかに 谷出 知子
 秋雨や往古梨まつり睦み合い 狭間 伸
 琴の音に心安らく秋しくれ 吉岡 正巳
 秋の日に往古梨まつりで歌うたう 竹岡 玲子
 秋雨に人の行きかう往古梨祭さい 駒原 愛子
 あめのひにおこなしまつりいっぱいだ 高橋 照美
 南なおまさ

第十九回 子どもたち作品展
あそびの世界
 いま
あかし

平成十六年十月十六日、ゆめドームうえの第一競技場において、第十九回子どもたち作品展を開催いたしました。

当協会立十四保育園では、子どもたちの成長を保護者とともに喜び合い、併せて地域の方々に保育園を理解していただくために、毎年、この作品展を開催しています。

今回も自分たちで制作した作品で遊びたいという子どもたちの思いから、草花・水辺・昆虫ゾーンを作りました。それぞれのゾーンで魚つりをしたり、カマキリのすべり台をすべったり、上野城の望遠鏡でお花畑



手あそびを楽しんでいます



子どもたち手作りの輪投げで遊ぶ親子

を眺めたり、ドンデン返しを忍者屋敷で体験したりと、三つの世界である子どもたちの目は輝き続けていました。

また、折りしも今年には芭蕉生誕三百六十年、芭蕉さんになりきった俳句作りや、お手玉・ケン玉等の伝承遊び、また、上野ウインドアンサンブルによるわらべうた等の演奏を聴いたり、楽しんだりしてもらいました。

晴天に恵まれ、今回は約二、八〇〇名の多勢の方々にご来場いただき、会場内は終日、親子のゆつくりとふれあう姿で時が刻まれていきました。

親子陶芸教室

芸術の秋、11月9日、三田保育園では、伊賀焼陶芸家の谷本洋さんをお迎えして、5歳児と保護者さんが一緒に伊賀焼体験を楽しみました。

粘土に触れた子どもたちから「冷たい!」という第一声があがりました。その声には、いつも保育園で使っている粘土とは違うぞという思いと、新しい物へ挑戦するんだという思いが込められていたように聞こえました。

子どもたちの手の中の粘土は、動物や怪獣へと次々に変身し、個性溢れる作品へと完成されていきました。保護者の方は花器や皿など、生活に役立つ一品になるようにと、丹精込めて仕上げていました。

陶芸作品の乾燥・焼き入れには少し時間がかかりますが、でき上がりにおもいをはせるのも楽しみの一つかもしれません。これらの作品は来年の2月に開催される三田地区の文化祭に出品し、地域の方々にも見ていただく予定です。

陶器づくりに集中する三田保育園の子どもたち



保護者も粘土と格闘



このようなねらいのもと、去る十一月十三日、主任研修会を開催しました。まず最初に、児童福祉法制定

主任研修会 開催

～主体的・積極的に行動できる主任をめざして～

保育園の主任会は、当法人十四保育園の保育士・栄養士・看護師・調理員の約六十名で構成されており、発足以来十数年になります。保育園運営には、主任の資質が保育の要となることは言うまでもありません。そこで、主任が保育に主体的、積極的にいかかわれるようになるには、めまぐるしく変化する社会情勢を正しく的確に把握する能力を兼ね備えていなければなりません。



児童福祉の地方移譲について講演する森下理事長

移譲とは」という演題で、最近の福祉の大きな改革の流れについて講演をしていただきました。今、福祉がその根幹から揺るがされようとしている大変な時に突入しているのだということを確認しあいました。後半は、参加者が三つのグループに分かれ、当面、国で議論されている就学前の教育・保育を一体として捉える「総合施設」について話しあいました。



研修会で保育の現状について説明する主任保育士

今回の研修で、主任は施設の運営者の一人であるということが自覚でき、物事の本質を洞察する力、つまり物事の両面をみつめて、課題や問題を見極める力量が構築できたように思います。今後森下理事長を中心に当協会の全職員が、次代を支える子どもたちの育成が公的責任からはずされることのないようにと願って、自らの考えや意見を持って共に語り、思考力を高めあっていきたいと思えます。

おいもが、たくさんとれたよ

友生保育園とゆめが丘保育所の園児191名が、にぎやかにさつま芋掘りを楽しみました。

春に芋のつるさしをしたので、みのりの秋、「大きくなっているかな？」と期待に胸を膨らませながら、畑に到着しました。とは言っても、つるさし後のお世話は、当日の準備もそうですが、地域の方々や老人会の方々がしてくださったのです。スコップをさしこむと、子どもたちが楽しみにしていた芋が顔を出し、「やったー。」「大きいぞ!」「赤ちゃんいももあるよ。」など、畑のあちらこちらで歓声があがり続けました。

帰り道は、留守番をしている「乳児組さんへのお土産だ」とたくさんの芋を持ってはりきって出発しました。しかし、芋掘りの疲れも出てきたのが、子どもたちは「おもしろい。」といいながらやっとの思いで保育園へ到着することができました。

この芋掘り体験を通して、収穫の喜びや、お世話をしてくださった地域の皆さんへの感謝の気持ちが育ってくれたらと思います。



さつまいも、こんなにとれたよ

「お魚さん、元気に育ってね」



十月十九日、ゆめぼりす伊賀の南公園内を流れる小波田川で、ゆめが丘保育所の子どもたちが稚魚の放流をしました。この事業は、環境保全運動の一環として実施されました。川原に到着した子どもたちは早速、市役所農林課の皆さんや伊賀川漁業協同組合の方々から、バケツの中に稚魚を分けしてもらいました。子どもたちはバケ

ツの中をのぞきこんで、「かわいい」「パクパクとお話している」等と、稚魚の口を開ける姿に引き込まれていました。そして放流するときには、「元気に育ってね」と声をかけ、川底を泳いでいく稚魚をいつまでも見守っていました。



雨の中、お魚と和金の稚魚を放流する園児たち



小学生一日点字教室



去る平成十六年八月二十二日、第三回「小学生一日点字教室」を開催しました。”上野点訳奉仕グループ”の会員八名のご協力を得て、小学生、中学生あわせて二十七家族、六十名の参加をいただきました。

昨年、小学生のみなさんに、点字図書館の事をもっと知っていただきたいという思いもあり、当館に併設する「かしの木ひろば」で開催しましたが、なにぶん小さな施設です。今回は上野市ゆめほりセンター二階大会議室をお借りしました。

また最近、夏休みの自由課題で点字を取り上げる子どもたちが増えて、当館を訪れる小中学生が多いので、少しでもその研究のお役にたればと考え、今回は八月に実施する



点訳ボランティアの方々による点字の説明

ことにしました。

参加者は”あい”のみなさんから点字の歴史や構成、点字器と点筆の使い方の説明を受けた後、自分の名前や文章を点字で書いたり、『読めない…』



点訳ボランティアの方から個別指導を受ける親子

と言いつつ、その点字を指で触り確かめていました。また保護者の方も子どもたちと一緒に、パズルを解くように書いては読んでいました。

最後になりましたが、ご参加いただきました多くの方々に始め、ご協力をいただきましたボランティアの皆様や関係者の皆様に対して、心より感謝とお礼を申し上げます。



熱心に点字の勉強をする親子

ボランティアの集いに参加して音訳グループ「のび」岸森千賀子

観光バスで、名張駅東口を出発したのが午前七時四十五分、一路精華町の「わたしの仕事館」へ。広大な建物の中には四十種類もの仕事を体験できる部屋と、無数のコンピュータによる適性判断など、ルーズソックスの女子高生や、あどけなさの残る中学生に混じって、我々おばさん軍団はめげること無く、出来る限りの見学を楽しみ、アツと言う間に制限時間!!



松伯美術館(奈良市登美ヶ丘)の前で記念撮影

午後は待望の「松伯美術館」へ。ここは、我々しのびグループの強い希望があり、館長にお願いした見学場所でした。と言うのは、今、梨ノ木園の読書会で、宮尾登美子著「序の舞」を読ませてもらっています。これは女流画家上村松園の生涯を小説化した作品で、松園はたぐい稀な才能と女性らしさを持ち、

身障施設のページ

一方で恋多き女性でもあり、息子で同じく画家の松篁に対しては、父親の役目もはたし立派に育て上げ、生涯を通し美を追求しつづけてきました。女性で始めて文化勲章を受章した上村松園と言う女性に、梨ノ木園で聞いて下さっている方たちはもちろん、我々読み手の方も、今では、みんな松園ファンになってしまったと言ふ次第です。このたびの館長のお計らいで夢を叶えられたことに深く感謝いたします。

上野点字図書館のボランティアの方々が製作された図書等 H16 6 / 1 ~ H16 11 / 30

グループ「あい」(点訳)

- ・点訳図書 一タイトル三冊
- ・内PC点訳 一タイトル三冊
- ・点字触読指導
- ・教科書の点訳

グループ「あかり」(点訳)

- ・点訳図書 一タイトル四冊
- ・内PC点訳 一タイトル四冊
- ・教科書・参考書等の点訳
- ・名張市広報の点訳

グループ「しのび」(音訳)

- ・音訳図書 三タイトル十四巻
- ・上野市広報の音訳
- ・大山田村広報の音訳
- ・中日新聞コラムの音訳
- ・梨ノ木園・第二梨ノ木園読書会

グループ「こだま」(音訳)

- ・音訳図書 二タイトル十五巻
- ・中日新聞コラムの音訳

お知らせひろば

「ご支援ご協力いただいている方々」
(平成十六年七月～平成十六年十一月)

《個人》

— 敬称略 —

山本	森本	森田	百北	村井	南出	松山	町野	古川	福森	廣島	比沢	服部	西山	中山	中森	中原	中井	中井	戸上	玉川	田中	伊達	武田	杉本	佐々	小谷	北寺	尾崎	小川	大野	梅村	上田	稲森	石原	東原
濱子	剛士	満枝	充進	恒子	周久	小枝	益弘	た子	邦泰	富美	康祐	進進	重男	尚美	仁志	秀幸	宗賢	弘毅	谷高	谷本	田中	春江	元一	木聖	三三	眞弓	英治	秀貴	利江	秀貴	ひさ江	密浩	京浩	弘作	
吉川	森中	森田	村田	三山	皆川	松永	別所	藤本	廣島	平井	浜口	長谷	西出	中森	長町	中出	中出	戸高	玉台	谷本	田中	竹村	朱雀	澤山	小林	櫻ふ	川浪	奥田	岡森	太田	上谷	猪木	伊藤	有野	
恵喜	さ子	好子	喜良	勲修	夫隆	清山	法子	光樹	正弘	隆志	か子	成子	年子	尚格	潔巴	實宏	久昭	正和	善善	しえ	文司	正治	悦子	玲子	英夫	明彦	久昭	隆昭	千里	康昭	井垣	井垣	井垣		
義美	孝夫	弘子	勝己	勝進	賢学	裕子	喜廣	順子	龍弘	尚敏	一子	節子	智明	克美	実洋	紀代	洋子	和子	和子	充信	宜丸	知一	奥子	眞子	昌之	博昭	吉隆	昭昭	昭昭	昭昭	昭昭	昭昭	昭昭		

《団体》

— 敬称略 —

ボランティアグループあゆみ、ボランティアグループミックスジュース、上野点訳奉仕グループあい、名張点訳奉仕グループあかり、上野音訳グループしのび、名張音訳グループこだま、にんじんクラブ、絵手紙いろは、大野木ゆうゆうクラブ、カマキリ部隊、小さな親切運動三重県支部、三重保育園、三田小学校、長田小学校、あけぼの学園高等学校、上野商業高等学校、日生学園中学校・第一高等学校、アイパートナー、JAヘルパー実習生、グリーントピア名張、恒風寮、さわやか園、太陽作業所、森の里、南山城村、大内地区、大滝地区、大野木地区、小田町自治会、桂地区、桑町自治会、七本木地区、白樺地区、朝屋老人クラブ婦人部、中瀬公民館、長田公民館、長田自治会、長田老人クラブ連合会、治田地区、花垣地区市民センター、花之木公民館、花之木児童福祉会、古山市民センター、古山地区、古山地区民生児童委員、法花地区、三田公民館、三田地区自治連絡協議会、予野地区、伊賀市社会福祉協議会、伊賀上野ライオンズクラブ、伊賀市更生保護女性会の会、上野市視覚障害者福祉会、上野市身体障害者福祉連盟、上野商工会議所婦人部、上野ロータリークラブ、上野東ロータリークラブ、岡波看護専門学校、岡波総合病院、名張・上野歯科衛生士会、三重県歯科医師会上野支部、芭蕉翁記念館、前田教育会館、白ゆり会、上野市カラオケ協会、市民文化祭実行委員会、マンドリンアンサンブルセシリア、コーラスグループステラ、コール・フラウミント、上野市仏教会、黒住教上野中教会所、西蓮寺、常住寺、大超寺、射手神社、平井神社、伊賀北部農協長田ふれあい店、伊賀北部農協花之木ふれあい店、伊賀北部農協古山ふれあい店、今岡米穀店、魚留商店、大内郵便局、小川整備、小川モーターズ、奥田理容店、金谷、欣栄堂、グリーンティー高尾、甲野屋、コー力共同製茶、さわ楽器、親和工務店、大黒屋魚店、大進水産、竹澤商店、伊達商店、田山北部共同製茶工場、田山第一共同製茶工場、田山南部共同製茶工場、鶴岡、鍋本商店、西尾デンキ、西澤精肉店、八百市、服部文具店、福田豊工務店、古山郵便局、マルキンパン本店、三重ヤクルト販売、村脇電気、名阪設備工業、吉岡新聞鋪、米岡家具センター

法人名称変更のお知らせ

「伊賀市」の誕生に伴ない、当法人は名称変更をすることになりました。各方面の方々にはさまざまな意見を頂戴し、協議を重ねた結果、当法人の名称は「上野市社会事業協会」から「伊賀市社会事業協会」に改称しました。

昭和二十三年六月、上野市社会事業協会が誕生して以来約半世紀余、五十六年が経ちました。発足当初は経済的に困窮する人たちの自立支援のための授産場と、曙保育園、睦保育園の運営からスタートした当法人も、今日では、児童福祉施設、老人福祉施設、障害者福祉施設など、三十の施設・事業を運営する法人となりました。これもひとえに、多くの先人たちの福祉の充実発展のために尽くされたたゆまないご努力と、各方面からいただいたご支援の賜物と、感謝申し上げます。

これからも、皆様に信頼される社会福祉法人であるよう、専心努力を続けてまいります。何卒変わらぬご支援ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

編集後記

小さかったころ、父から幻灯を見せてもらいました。それは、月ではウサギが餅をついているという内容のものでした。現代の夜は、秋の澄んだ大気に浮かんだ月によって人工の光があふれ、ウサギがいなくなりました。いつからか我が家のお月見も無くなりました。お月様のウサギが怒ったわけでもないですが、今年は日本全国を襲った台風や地震などの自然災害に見舞われました。失われた多くの尊い人命に心からご冥福をお祈り申し上げます。また、負傷された方々には衷心よりお見舞い申し上げますとともに、一日も早いご回復をご祈念申し上げます。皆様、よいお年をお迎え下さい。(編集者)

お知らせひろば

『伊賀』を撮る



「秋深まるゆめぼりす伊賀」
松本道代（ゆめが丘保育所）



「野間・里山・そば畑」
南 多美子（梨ノ木園）



「芭蕉の森の散歩道」
稲垣寿子（三田保育園）



「秋の伊賀を走る」
藤岡和子（予野保育園）



「忍者屋敷のどんでん返し」
前川ちえ子（府中保育園）



「静かな水面の滝川ダム」
竹内佐千子（ゆめが丘保育所）



「祭りの朝・東の御旅所」
菅野牧子（みどり第二保育園）



「紅葉に向かう正月堂」
山 京子（曙保育園）



「藤堂屋敷の正門から寿栄神社へ」
山下貴史（古山保育園）



1	盲養護老人ホーム 梨ノ木園	(定員) 70人
2	特別養護老人ホーム 第二梨ノ木園	50人
3	老人ショートステイ	20人
4	老人デイサービスセンター なしのき	
5	在宅介護支援センター なしのき	
6	梨ノ木診療所	
7	曙保育園	180人
8	睦保育園	90人
9	三田保育園	60人
10	中瀬城東保育園	115人
11	友生保育園	75人
12	花之木保育園	60人
13	予野保育園	45人
14	長田保育園	45人
15	古山保育園	45人
16	みどり保育園	150人
17	心身障害児療育施設 かしのみ園	
18	ひかり保育園	120人
19	みどり第二保育園	120人
20	府中保育園	90人
21	ゆめが丘保育所	180人
22	上野点字図書館	
23	伊賀市盲人ホーム	
24	在宅障害者デイサービス施設 かしのみひろば	
25	伊賀広域在宅障害者生活支援センター かしのみ	
26	身体障害者療護施設 梨丘園	20人
27	児童クラブ フレンズうえの	
28	児童クラブ キッズうえの	
29	児童クラブ ウイングうえの	
30	児童クラブ レインボーうえの	
31	法人本部事務局	